

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成28年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
28-1	ETC2.0 プローブ情報等を活用した“データ駆動型”交通需要・空間マネジメントに関する研究開発	東京工業大学大学院 准教授 福田 大輔	A
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>長期かつ広域で観測される ETC2.0 プローブ情報等の交通関連ビッグデータを、マルチスケールの多様な交通モデルと有機的に結びつけることで、交通政策のエビデンスベース評価を可能とする“データ駆動型”交通需要・空間マネジメントに関する研究・技術開発を行う。また、首都圏、北海道、沖縄を対象として提案する各手法の社会実装（調査・分析・政策評価フレームの構築）を行い、各種交通社会実験の詳細検討に資する知見を提供する。</p> <p>&lt;中間評価&gt;</p> <p>都市部における分析、地方観光圏における分析ともに当初の研究計画に従い順調に進展しており、研究成果についても期待できることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別テーマ間の関係性を明らかにするとともに、全体としてのターゲットを明確にして研究を進めること、また、複数の地域を対象として研究を実施した意味を総括的に論じることが望ましい。</li> <li>2. ETC2.0 データによるマネジメントはどこまで可能なのか。有用性と限界を明らかにすることが望ましい。</li> <li>3. 多様なデータの蓄積と交通モデルの構築が進んでおり、その融合による交通需要マネジメントへの活用を期待したい。</li> </ol>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第31回新道路技術会議において審議したものである。